

せいらんそう

社会福祉法人
芳香会誌
第26号
2014年7月発行



青嵐荘つくし園は今年で20周年を迎え、
利用者・職員それぞれが新たな目標を掲げ第一歩を踏み出しました

もくじ CONTENTS

希望を胸に…
～新社会人の抱負～

・・・2

岩手県大槌町、
山田町を訪問して

・・・3

障害者施設トピックス

・・・4

青嵐荘療護園
芳香会病院青嵐荘療育園
青嵐荘蒔のとう舎
青嵐荘つくし園



バリアフリー イン 大阪

・・・5

障害者職業相談員
担当者の会発足について

・・・5

芳香会活動報告

・・・6

芳香会スケジュール

・・・6

編集後記

・・・6

2011年3月11日に発生した東日本大震災において被災された皆様には、改めて心よりお見舞い申し上げますとともに、当法人も引き続き復興に向けた支援活動に取り組んでまいります。

希望を胸に...

～新社会人の抱負～

芳香会では四月一日に十一名の新任職員を迎えました。

社会人としての生活をスタートさせた新任職員に、就業開始二ヶ月間の感想や今後の抱負を語ってもらいましたので、ご紹介します。

①二ヶ月経過して感じていること

②仕事で気をつけていること

③今後の目標(抱負)

【青嵐荘ケア・アシスタンス 支援相談員 小林 里栄】

① 一日の施設の流れに少しずつ慣れてきました。初めはご利用者の顔と名前を覚えることに一生懸命になりすぎて、なかなか自分からコミュニケーションをとることが出来ませんでした。最近ではご利用者と会った時に、自分から話しかけることが出来るようになってきたと思います。

② 人と話をする機会が多いので、言葉遣いに気を付けています。また、分からないことや疑問がある時はそのままにせず、自分が理解出来るまで確認することを心がけてます。そして挨拶をするときは、笑顔忘れず気持ちの良い挨拶が出来るよう心がけています。

③ ご利用者だけでなく、ご家族とのコミュニケーションの機会も大切にしていきたいと思っています。ご利用者とそのご家族の顔と名前を覚えて、お会いした際にはご利用者のご様子等をお伝えし、

安心してまたご面会等へ来ていただけるような声掛けを、実践しながら学んでいきます。



【つくし園

生活支援員 田中 優花

優花

① 初めて現場に配属されたときは何も理解できていなかったのでもともと不安でした。二ヶ月経過した今ではご利用者一人ひとりの様々な介助方法を覚えることができ、実践は不安がありますが徐々に慣れていきたいと思っています。介護福祉士になると決めた時は父に反対され、周りからも「大変な仕事だよ」と言われ悩んだ時期もありましたが、誰かの役に立ちたいという思いがあったので介護福祉士になることを決意しました。



② 健康管理に気を付けるようにしています。入社してすぐに日頃の予防対策が不十分だったこともあり風邪を引いてしまいました。体調が悪いとご利用者へも影響してしまうので、食事を始め生活習慣の中で自分ができる注意を継続していきたいと思っています。

③ 今は覚えることが多くあり目標について考える余裕はないのですが、私は自分の能力以上のことをしてしまうことがあるので、一歩ずつ確実に進めるように努力したいです。また、焦らず物事を整理して落ち着いて行動できるようにしたいです。

【牛ヶ谷保育園

保育士 橋本 穂乃香

① 働いている全ての人を尊敬する気持ちになりました。今までに感じてきた大変さとはまるで違った責任感や厳しさを感じます。しかし戸惑うこと、緊張が多々ある中で先輩方に助けていただきながら、時には子どもたちに助けてもらいながら充実した日々を送っています。

② 戸惑い、緊張の中でも、何を優先すべきか冷静に考え、焦らないよう心がけています。

「焦った気持ちは子どもたちにも伝わってしまう」と考えながら仕事に取り組んでいます。どのような工夫をしたら子どもたちが笑って過ごせる時間が増えるかという点も常に意識しています。

③ 今ある新鮮な気持ち、全力で頑張ろうという初心を忘れずに、先輩方の憧れるところを見習いながら、憧れるところと自分の考えを上手に織り交ぜ、自分らしい保育を探索していこうと思っています。その為にはどんなに小さなことでも毎日目標を持って保育することが大切だと考えています。

【芳香会病院青嵐荘療育園

養育員 長竹 祐樹

① 徐々に慣れてきましたが、まだまだ覚えることがたくさんあり勉強不足を感じています。毎日ご利用者と関わることでご利用者のことを深く知り、先輩方にも色々アドバイスを頂け良い関係が作れつつあります。またお互いを知ることでも今まで気付かなかった部分に気付けた気がします。



② 言葉遣いです。ご利用者と毎日関わっていく中で少しずつお互いを知っていくと徐々に信頼関係が築けていきますが、関係が築けたからといって自分より年上の方に対し生意気な口調や、あだ名で呼び呼ぶことは大変失礼ですので丁寧な言葉遣いを心掛けています。

③ 一日でも早く業務を覚えご利用者一人一人が持つ力を最大限に活かす、笑って過ごせるよう支援していきたいです。その為にもご利用者一人一人の状態をしっかり把握していきたいです。また、仕事に慣れたからといって驕ることなく常に初心を忘れず頑張っていきたいです。

岩手県大槌町、山田町を訪問して ～復興地支援活動～

芳香会では東日本大震災被災地支援を継続しています。
岩手県上閉伊郡大槌町は地域包括支援センターとのタイアップで専門職派遣を、下閉伊郡山田町は被災地支援特別枠奨学金と、それぞれの活動を行って参りました。被災地の今を知り、今後芳香会にできることを考えるため、理事長と職員が現地を訪問しました。

理事長 宇留野光子

平成二十六年四月一日（火）～二日（水）当法人職員二名とともに訪問して来ました。訪問目的は、今後の支援の必要性の是非を知る事でした。大槌町は平成二十六年度の専門職派遣事業（平成二十四年度から実施している地域包括支援センターへの後方支援）について、担当者に意見聴取をしました、現状の地域での高齢者の生活状況を教えて頂くことができました。

山田町では小・中・高生が授業終了後集う【ソントハウス】を訪問しました。縁があり、ここに通っていた高校生が、当法人で実施している【被災地支援特別枠奨学金】対象者となり平成二十五年度より奨学金を支給しています。当日はその保護者にもお会いし、現在の家族状況や漁業の復興状況について、話を伺いました。このソントハウスは、東洋大学の森田教授が中心となり物心両面の支援、ゼミ学生のボランティア活動が積極的に行われています。利用を希望する子どもたちの学



専門職派遣部 野村 幸代

平成二十四年度と二十五年度に、岩手県上閉伊郡大槌町にリハビリスタッフを中心に職員を期間限定で派遣し、支援活動をしてきました。主に仮設住宅で生活不活発病を防ぐために行われている体操教室（楽しく体操）のお手伝いです。今年度の状況を知るために四月一日理事長と私を含め三名で大槌町地域包括支援センターを訪問しました。地域包括支援センターとは高齢者を中心に総合的な相談や支援をする部署です。町の様子は、被災した沿岸部を中心に土盛りという工事が進んでいました。



そのため、これまでプレハブで営業をしていた店舗が全て移転し、大規模開発地域の様相をしていました。包括支援センターの職員からこのような状況なので被災したことへの記憶が薄くなるという話をききました。町役場の機能は戻りつつあるものの、県外からの派遣職員は増えている状況だそうです。町内の介護保険サービスは慢性的な人員不足に陥っており、希望する時間帯のサービスを受けにくい状況が続いているそうです。災害公営住宅はできてはいませんが、まだまだ仮設住宅で生活をする方が多いのが実情だそうです。私たちが行う支援活動は、現地に根をおろしながら行う支援とは異なり、期間限定なので、限界があるのは事実です。ですが、できた関係を大切にしながら、平成二十六年度も、大槌町の仮設住宅を訪問し、支援活動をしていくことになりました。



（前）専門職派遣部 酒寄 学

平成二十六年四月二日（水）、宇留野理事長とともに岩手県下閉伊郡山田町にある「山田町ソントハウス」を訪問しました。「ソントハウス」は東日本大震災で未曾有の災害に見舞われ、仮設住宅での生活を余儀なくされている中高生たちが、騒音やスペースの問題で自宅では集中できない家庭学習をする場として、部活動帰りに立ち寄る場所です。

訪問当日は、学習指導の先生にもお話を伺うことができました。先生は、学習指導者という立場で、中高生一人ひとりの将来の希望を叶えるための支援をすると同時に、被災した地域の復興を担う世代をきちんと育成するという信念をもって、学習指導を担われておりました。被災地の復興というと、喫緊の課題に対しスピード感を持って対応することが至上命題のように思われがちですが、同時に長期戦になるであろう被災地の復興を担える若者・子ども世代の育成も必要であることとを、痛切に感じました。

そして、現在の被災地の状況は、数年後の日本社会の縮図であるようにも思われます。被災地の復興、そして日本社会の未来を担う次の世代の育成を社会福祉法人の役割として真剣に考えていきたいと思えます。

平成24年度 専門職派遣		
第1陣	7/23～27	理学療法士2名、社会福祉士1名
第2陣	8/20～24	理学療法士1名、作業療法士1名、社会福祉士1名
第3陣	9/24～28	作業療法士2名、社会福祉士1名
第4陣	10/22～26	理学療法士2名、社会福祉士1名
第5陣	11/26～30	理学療法士1名、作業療法士1名、社会福祉士1名
平成25年度 専門職派遣		
第1陣	6/3～7	作業療法士1名、管理栄養士1名、社会福祉士1名
第2陣	7/1～5	理学療法士1名、介護福祉士1名、社会福祉士1名
第3陣	7/29～8/2	作業療法士1名、管理栄養士1名、社会福祉士1名
第4陣	8/26～30	理学療法士2名、社会福祉士1名、県内医療大学学生（理学療法士）2名同行
第5陣	9/23～27	理学療法士1名、作業療法士1名、社会福祉士1名、県内医療大学学生（理学療法士）2名同行
第6陣	10/28～11/1	理学療法士1名、介護福祉士1名、社会福祉士1名

障害者施設トピックス

新たなエコ・リサイクル活動

青嵐荘療育園



療育園では五月より新たなエコ・リサイクル活動として、ペットボトルの減容作業を開始しました。ペットボトルシュレッダーは、一般財団法人前川報恩会様の助成金ならびに株のはら様のご寄附により購入させて頂きました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。屋外で実施する空き缶リサイクル活動に対し、本活動は屋内で実施をしております。療育園では、ご利用者の高齢化と障害の重度化が年々進んでおりますが、長時間の屋外作業が困難となった方々も気軽に参加できる点が特徴を言えます。天候に左右されないというメリットもあり、安定した活動実施が期待できます。ペットボトルシュレッダーの構造上、一度に多くの量进行处理する事は困難ですが、「細く長く」の精神で、多くのご利用者が活動を継続できるよう、支援したいと思っております。



フェイスブックの活用

青嵐荘療育園



療育園の活動をご家族や地域の方々にもうまく情報発信できないだろうか。療育園では、そのような熱い思いを抱き、各課から6名の職員で広報員会を立ち上げました。会で最初に行った

ことは、フェイスブックの活用です。どうしたら手軽にみんなで関われ、無理なく継続して情報を発信できるかを考えました。フェイスブックは、世界最大のソーシャルネットワーキングサービスで実名で現実の知り合いとネット上で交流するサービスです。メンバーの中には既に個人で活用している者もあり、様々なアイデアや工夫も提案され、世代間の価値観の交流の場にもつながっています。フェイスブックの情報を瞬間的に皆様にお届けできるメリットをいかし、療育園の“今”を発信し続けていきたいと考えています。是非皆様、たくさんの「いいね」をお待ちしております。



ありがとう掲示板

青嵐荘つくし園



青嵐荘つくし園では、『利用者互助会』が結成されています。ご利用者が主体となつて日々の生活をより充実したものにしていくことを目的とする会です。カラオケや季節行事の企画・実施、被災地支援の募金などを行ってまいります。ある日、ご利用者から「日頃の感謝の気持ちを伝える場が欲しい」という話がありました。このひとつから始まったのが『ありがとう掲示板』です。これは利用者同士や職員への感謝の気持ちを自由に表現できる掲示板です。この掲示板がきっかけで、お互いの関係性が良



好になり、同時にご利用者の自主性にも繋がりました。自分たちで一から企画をし、何かを成し遂げるといったことは大きな喜びに繋がります。利用者職員間の相乗効果をもたらしています。ご利用者の中に秘める想いを引き出せるような環境・雰囲気づくりに徹していきたいと思っております。

至高の野菜

青嵐荘のとう舎



今年も青嵐荘のとう舎では皆さんにご好評いただいております野菜販売を開始します。福祉と農業の連携が叫ばれている昨今、露のとう舎でも農作業・園芸作業を行い、皆様の食卓やお庭に蒔くとう舎産の野菜や花で埋め尽くされることを目指しております。主要品目は、きゅうり・ナス・トマト等で、今年は特にトマトの生産数を増やし、トマト農家も驚くほど良質なトマトを作る目的の元、ご利用者の皆様が暑い中、作業に従事しております。野菜だけにとどまらず、花の栽培ではリサイクル活動に協力いただいている事業者・個人にお配りする「ありがとうフラワー」や販売用の花も出荷に備えてただ今成長中であります。成長を見守り管理することが難しいと感じているご利用者もおりますが、納品時の業者の方々やお客様と触れ合うことが、これからの活動への活力となっております。そして価格や品質で露のとう舎産野菜が選ばれるような野菜作りをご利用者・職員一丸となって頑張っていきたいです。



バリアフリーイン 大阪に参加して



平成二十六年六月にバリアフリー2014が三日間大阪にて開催されました。当法人からは八名参加し、その中から代表して三名の方から報告を頂きました。



バリアフリー2014（高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展）が四月十七日から十九日の三日間大阪にて開催され、当法人から理事長をはじめ看護師等八名で参加いたしました。会場は五ブースに分かれ介護関連等多岐にわたる出展がありました。中でも今回の参加で最も注目したのは介護ロボットのブースでした。介護

ロボットと聞くと介護をする鉄腕アトムのようなロボットと想像してしまいましたが、①介護の軽労化・軽減化、②話し相手等コミュニケーションの多機能化、を中心に機械開発等が目覚ましく進んでおります。芳香会もロボットを良きパートナーとして共に業務にあたれるよう積極的に導入を進めて参ります。

芳香会病院青嵐荘療育園 副施設長 窪誠勇



昨年度に厚労省の腰痛予防対策指針の改訂がありました。職員の腰痛予防対策を目的に、乗り降り介助機器の見学とセミナーを見てきました。移乗支援ロボを開発している企業では介護

の軽労化のみでなく、自力で操作ができるような自立支援を謳っている物が多く見られました。リフト活用の



セミナーに参加して、介護現場に機械を導入することの偏見をなくし、介助する人も介助される人も、苦痛のない方法を取り入れることが必要であると学びました。日頃より、福祉用具の現場への導入に難しさを感じることがありますが、同じ課題を抱えている施設の多いことにも気づかされました。

青嵐荘ケア・アシスタンス 神田作業療法士



バリアフリー2014の中で藤井寺市社会福祉協議会の地域包括支援センター長の話を聞きました。キャッチコピーやシンボルマークを住民と一丸となり完成させたり、認知症サポーター養成講座を開いたり、住民代表への研修、団塊世代への働きかけ、専門職のサポート、家族セミナー等を行い、認知症の地域ネットワーク作り成功していました。つくし園でも認知症や高次脳機能障害で暴言や暴力等がみられる方もおりましたが、職員が介護の前に「ささえていただきます」と声掛けをする事で不安を和らげ、暴言等の数が激減しました。私たちの日々の対応の仕方の工夫が必要と考えます。



青嵐荘つくし園 大澤看護師

障害者職業相談員担当者の会 発足について



皆さんは、【障害者職業相談員】と言う認定資格をご存じでしょうか？この資格は雇用障害者五人に一人の資格者を配置し、障害者がより働きやすい環境の中で雇用継続ができるように支援を行うことを目的とします。



- ① 仕事が変わりやすく、本人が自立的に行うことができるようサポートする
- ② 人間関係がスムーズになり、一諸に働きやすい職場作りを目指す
- ③ 障害者間の交流をとおし、より長く就労が継続できるよう支援する

このような視点にたち、現在、当法人で十人の知的・精神障害者の方が在職しています。今年度より、三人の【障害者職業相談員】を中心とした会が発足され活動を開始しました。主な活動計画は、レクリエーション・学習会・技能大会出場等一年に三回くらい全員が集い仲間意識を高めてもらいます。さる六月二十一日（土）に「そば打ち体験」をし、皆で楽しい一時を過ごしました。出来上がったお蕎麦はとても美味でした。みんなの笑顔、そしてこれからも働く仲間として、ともにかわりを深めて行きます。

青嵐荘つくし園 杉野副主任相談支援員



芳香会活動報告



グリーンカーテン 新たな取り組み



療育園では、平成二十三年度からエコ活動の一環としてグリーンカーテンを実施しており、今年で四年目を迎えました。過去三年間の取り組みの中で一番の問題点が水遣りでした。琉球アサガオを植え付け後、毎日午前・午後二時間の水遣りを行ってきました。しかし業務が立て込んでいるときは日々の水遣りが出来ずに、生育に多大な影響が生ずることもありました。そこで、今年度から自動散水装置を設置しアサガオへの水遣りを実施したお陰で業務が軽減されました。又、井戸水を使用しています。夏には立派なアサガオが皆さんへの癒しの景観となる事を期待しております。

芳香会病院青嵐荘療育園 石川事務員



液肥の活用をお勧めします



平成二十三年度に上大野地区で導入した生ごみ処理機「ゴミサー」は生ごみを分解し液体にして処理することが出来る機械です。生ごみを

分解後に排出される大量の液体は、植物を育てる時に活用できる“液肥”になります。上大野地区では、この液肥を職員に無料で配布し、家庭菜園などに役立てていただいています。毎月第一・三水曜日の十三時から三十分間の配布ですが、たくさんの方の職員に活用いただき好評です。この液肥は機械からの抽出液を一週間放置し、上澄みだけを使用する



ものですが、職員へは上澄みだけを配布しておりますので家庭に持ち帰りすぐに使用することが出来ます。持ち帰った液肥を水で三・五倍に薄めて使用してください。添加物の一切入っていないミネラル液肥で夏野菜の家庭菜園を楽しんでみてはいかがでしょうか。詳しくは上大野地区の栄養士までお問い合わせください。

芳香会病院青嵐荘療育園 北條栄養係長



芳香会スケジュール

七月 上旬	各地区夏祭
七月 三日	個人情報保護研修会
七月 六日	大植町支援活動
七月 十一日	… 第一陣 …
七月 二十日	ソーシャルワーカーデイ研修 (福祉と司法の連携を考える)
七月 下旬	お楽しみクジ抽選会
七月 二十八日	第三者委員会
八月 上旬	苦情受付体制委員会研修会
八月 十七日	大植町支援活動
八月 二十二日	… 第二陣 …

編集後記

さる六月二十三日 (月) 茨城労働局において、くるみん認証の承認書を拝受致しました。女性職員が約7割を占めM字を極力防止し、より長く就労継続してもらいたいと痛感致しました。また男性職員も育児休暇を取得しやすい職場環境にして行くことを再度目標として行きます (光)

十数年前、私も初々しい(?) 新社会人でした。日々、上司や先輩、同僚に支えられ充実した社会人生活を送らせて頂きました。一緒に働く仲間にとって働きやすい職場環境作り、私も微力ながら頑張ります。 (加)

毎日暑い日が続く淹の様な汗をかく日々を過ごしています。この時期になるとこの暑さで運動しなくても痩せられたらいいな、なんて毎年思っています。皆様夏バテにはお気を付けてください。 (織)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。